

3486 地球のかおり 「アラスカの春」 状況と心模様①

小学生 100 人に聞いた。「氷が溶けると何になるか」

99 人は、水になると回答。一人は春になると答えたという。

文化は、文明に侵されると、もろい側面がある。

10 年は一昔、今の小学生は、どう答えるのだろうか。今の先生は…

アラスカの春、氷がとけると春になる。まさに実感。

穏やかな風は心地よい。水ぬるむ季節、6 月。

日本なら、新緑から初夏へ向かう季節。

イワナや鮎、溪流釣りも解禁の頃ではないだろうか。

アラスカは、キングサーモンが思い浮かぶ。

眼前のこの作品には、とらえられず、写っていないが、

ビーバーが、氷のあいだから、頭を出す。

作品にできればと、長時間チャンスを狙ったが、叶わなかった。

素早い上に、潜航時間も長く、どこに姿を見せるか予測が難しい。

繊細なのか、警戒感なのか、人間に近づかない。

一定の距離のある遠方には、姿を現す。

朝顔は、朝の光によって咲くのではなく、

夕べの冷たさと、闇の暗さの中で咲くという。

水面下では、春を待ちわびる活発な営みが始まっているのだろう。

ビーバーは、何度か頭を出しながら、姿を消していった。

何とも楽しい、心なごむ時間だった。

もう直ぐ春ですね。

カナダのユーコン準州、ホワイトホースから、国境を越えて、

アラスカへ足を踏み入れて、平原を 100 キロほど走行したのだろうか、

この湖水に出遭った。アラスカの大小湖沼数は、300 万を超える。

遭遇したのは、その一つ。

アラスカの面積は、152万平方キロメートル。
北米大陸の5分の1、日本の面積の4倍。
アラスカ州の約3分の1は、国立公園や国立保護区。
国立公園、国立野生保護区に指定されている。
山は、北米最高峰のマッキンリー山（6.194m）
川は、ユーコンはじめ約3.000。湖沼数は300万超。
初めてではない。実感としては、ともかく広大。

旅の始まりは、カナダ、バンクーバーから。
この時は、コースト山脈沿いに、ユーコン州へ。
出来れば、アラスカ国境まで行き、ロッキー山脈沿いに、
バンクーバーまで戻ればいい。軽い気持ちだった。
十分な時間のある、長期のひとり旅。
行き先を特定しない道草が、久楽くらくの旅のスタイル。
装備はしているが、アラスカの内陸に分け入るだけの時間はない。
楽しい旅がつづく、つい忘れてしまう。
少しだけと、アラスカの魅力に負けて、再訪したい所へと、
軽い気持ちで、国境を越えることにした。
と言うのも、一部徹底的に調べられている車や人もいたが、
国境係官が、日本人の私には親切だった。
高速道路を通過するような容易さで、通過。
国境係官はプロであり、直感で見分けるのかも知れない。

カナダ、バンクーバーから、プリンスジョージまでは、778キロ。
ドーソンクリークまで、142キロ。ユーコン準州、ホワイトホースまでは、1.438キロ。
地道の悪路だった。バンクにも見舞われた。
途中、何度も、この旅は中断し、引き返した方が良いかもと脳裏に。
ともかく、コースト山脈沿いは辺境。
今、ホワイトホース。アラスカ国境までは、約400キロ。
京都から東京日本橋まで、約450キロ。
舗装されたアラスカ・ハイウェイなら、距離はしれているが、悪路。並でない。

アラスカの素敵な光景が目にはやきついている。
これまでは、でこぼこ道の低速での走行。
ホワイトホースからは景観も良い。
バンクーバーまでの復路は、十分な長距離ではあるが、
ロッキー山脈沿いの舗装された道路。
今、アラスカの景観は、どうなっているだろう。
思いつくと、実にフットワークの良い久楽くらくが登場する。
我ながら困ったものである。

しかし、後になって考えれば、そうした贅沢な目的のない
感性や直感を優先した旅のスタイルがあったから、
素敵な光景にも遭遇し、心の財産が残った。
ものに気づくのは、知識だけでなく、感性の問題。
厳しかったが、そんな旅ができた私は幸せ者。
独り占めにするわけには行かないという思いがある。

私にとって、アラスカの魅力は、言い尽くせない魅力。
州花は、忘れな草。州木は、アラスカヒノキ。州鳥は、ライチョウ。
州魚は、キングサーモン、海の幸も新鮮で、食材も豊富。
ともかく、食べるものが美味しく感じる。
シーフード、キングサーモン、キングクラブ、ハリバット、
ホタテ貝、ベニザケ、シロザケ、ギンザケ、
カラフトマス、タラバカニ、オオヒラメ、ニシン、トナカイ、
野生動物との出会いも、面白く楽しい。
グリズビー（灰色グマ） ムース（ヘラジカ） カリブー（トナカイ）
ライチョウに豪快なイヌワシ、針葉樹林の景観。
アラスカは、私には、魅力一杯の領域。
夢とロマンが、いっぱいある国。

眼前の光景、平凡な光景のようだが、
前後や奥行きを思うとき、何とも印象的な物語がある光景。

アラスカ州、来年 2019 年は、60 周年と聞く。

自然保護のため、徹底した規制があるという。場所も期間も。

例えば、ムース、年間ひとり一頭のみ。オスのみ。

角の大きさも決められるという。

ムース一頭で、4 人家族が 1 年分、肉を買わなくて暮らせるという。

野生保護法で売り買いも厳しく禁止。

地元の人も、なかなか口にできない貴重品だと聞く。

キングサーモン、一日に釣ることが出来るのは、一匹だけ。

通常のフィッシング、ライセンスの他に、

キングサーモン用のライセンス（許可証）が必要で、1 シーズン、5 匹まで。

時を変えて訪ねると、よくなっていることはまずないのが、私の印象。

性善説、性悪説、とか難しい観点ではなく、

しかし、正しいか、正しくないかより、拝金主義、

儲かるか、金になるか否かが、優先されないことを願う。

言葉では簡単だが、人間は、どこに行こうとしているのか。

何を得て、何を失っているのか。

素敵な景観が、いつまでも見られるように願うのみ。

この眼前の光景、また、見られるだろうか。

自然の心、恩恵を忘れず、維持したい。子供や子孫に残すものとは…

環境は人の心を育み、環境が汚れると人の心も荒くなりがち。

美しいと感じる意識は、人の心を豊かにし、人間にとって不可欠なもの。

不穏な空気がいっぱいこの時代こそ、美しいものを見ること、

美しいと感じる心を大切にしたいもの。AI 建設機械や兵器の開発と使い方？

自然の恩恵を受けて生きている人間は、言わば、地球の間借人。

自然に対して克服でなく共生の姿勢を保ち、謙虚であるべき。祖先がいて、

現在がある。次の世代に受け渡すものは何でしょう。

自然や空気は親と同様、失って初めて気づくもの。再生はできない。

山はみどり、野に花、人にはこころ。自然に愛を。黒い雪や黒い氷はお断り！